

麻しん（はしか）の患者さんと接した方へ

麻しん(はしか)は、感染力が強く、予防接種を受けていないと多くの方がかかる病気です。そのため、一緒に生活しているご家族や、同僚、同級生など患者さんと接した方は麻しんにかかる可能性があります。

麻しんは時に重たい病状を引き起こすこともあり、注意が必要です。

麻しんという病気の特徴を知っていただき、健康状態について以下のような点にご注意ください。

1 麻しんはどんな病気？

- ・潜伏期間は10～12日です。つまり、患者さんと接したからといってすぐに発病するというわけではありません。
- ・初期症状(はじめの2～4日)は発熱と咳、鼻水、目の充血などの風邪と同じ症状です。その後一旦熱が下がり(1～2日)、再び熱が出ると同時に全身に発疹がでます。さらに4～5日高熱が続きます。
- ・感染期間は発熱が始まる1日前から解熱後3日です。



2 麻しんの患者さんと接したらどうするの？

(1) 麻しんワクチン接種歴を確認しましょう

- ・できれば母子手帳で麻しんのワクチン接種をしたかどうか確認してください。
- ・麻しんワクチンは、以下のワクチンに含まれています。



麻しん・風しん・おたふく風邪ワクチン(MMR)
麻しん・風しんワクチン(MR)
麻しんワクチン

* 上記の予防接種は昭和53年から順次始まりました



- ・昭和45年以前に生まれた方は幼少期にほとんどの方がかかっています。一度かかった方が、再度かかる心配はありません。

(2) 自分自身の健康観察をしましょう

- ・体温を確認しましょう。もし体温が37.5度以上になった場合は、外出を控えて医療機関に相談してください。
 - ・体温の測定は潜伏期間を考慮して2週間続けてください。
- * (1) で予防種歴めんえきがあった人も、1回の予防接種で免疫めんえきがつかない場合や、免疫めんえきが弱くなっている場合もありますので、健康観察することをお勧めします。



(3) 熱が出て医療機関を受診する際には注意を

- ・受診する際に、あらかじめ「麻しんの患者さんと接したことがあった。」ことを電話で相談して、受診の方法を確認してください。
- * 病院の待合室等で人にうつしてしまう危険があります。



(4) 麻しんと診断された場合は

- ・熱が下がってから3日間経過するまでは、外出(通勤・通学等)はお控えください。



3 予防するには？

- ・外出後の手洗いやうがいは麻しんの予防にも有効です。
- ・栄養バランスのとれた食事、適度な運動、休養で体力をつけましょう。
- ・咳せきがある病せき気せきの時には、咳エチケットを心がけましょう。



4 予防接種は？

- ・麻しんの患者さんと接した後、早期(3日以内)のワクチン接種は発病や重症化予防に効果があると言われています。麻しんにかかったことがなく、麻しんワクチン未接種の方には接種をお勧めします。主治医とご相談ください。
 - ・接してから時間がたっている場合、接種をしても発病を予防する効果が得られない場合があります。しかし、ワクチン接種をしておくことで、今後の感染予防に効果があります。
- *ただし、この場合の予防接種は有料です。接種なさる医師から副作用等に関する説明を受け、よく納得した上で接種してください。

お問い合わせ先

岡山市保健所保健課感染症対策係 岡山市鹿田町1丁目1-1
電話 (086) 803-1262 FAX (086) 803-1337